



カリキュラムマップ (R7~)

京都大学 大学院 総合生存学館

修了

5年次

4年次

3年次

進級

2年次

1年次

「総合学術」の学位取得に向けた「総合」の取組を発展させる期間

専門軸を形成する期間

修了要件：博士学位論文を作成し、審査に合格
(英語スコア)：TOEFL-iBT80点以上又はIELTS6.0以上が必要

2年次までに形成した専門軸を更に深化等させ、またはその専門軸と異なる学術分野の専門知識等領域を修得しつつ、総合生存学に資する学修・研究の成果を博士論文にまとめます。

総合生存学研究Ⅰ・Ⅱ 各4単位

QE(研究計画作成・発表)

学際研究コース

2年次までに形成した専門軸を更に深化等させ、武者修行・PBRにおける取組みとあわせて、総合生存学に資する学修・研究の成果を博士論文にまとめます。

武者修行・PBR 12単位

総合生存学研究Ⅰ・Ⅱ 各4単位

QE(研究計画作成・発表)

社会実践コース

専門軸を総合知へと発展させるためのコースを選択

進級要件：必要単位を取得し、修士論文相当を作成し、審査に合格

各研究科・専攻の専門軸形成に必要な科目
(例)
講義 4単位, 演習 6単位, 実験 12単位

特別研究ⅠA・ⅡA 各1単位

他研究科で専門軸形成

進級

共通

サステナビリティ総合知コース
ウェルビーイング総合知コース
フロンティア開発総合知コース
※いずれか1コースを選択し8単位以上修得

学館が指定する科目 10単位
情報系科目 2単位
サービスラーニング 2単位

特別研究ⅠA/B・ⅡA/B 各4単位

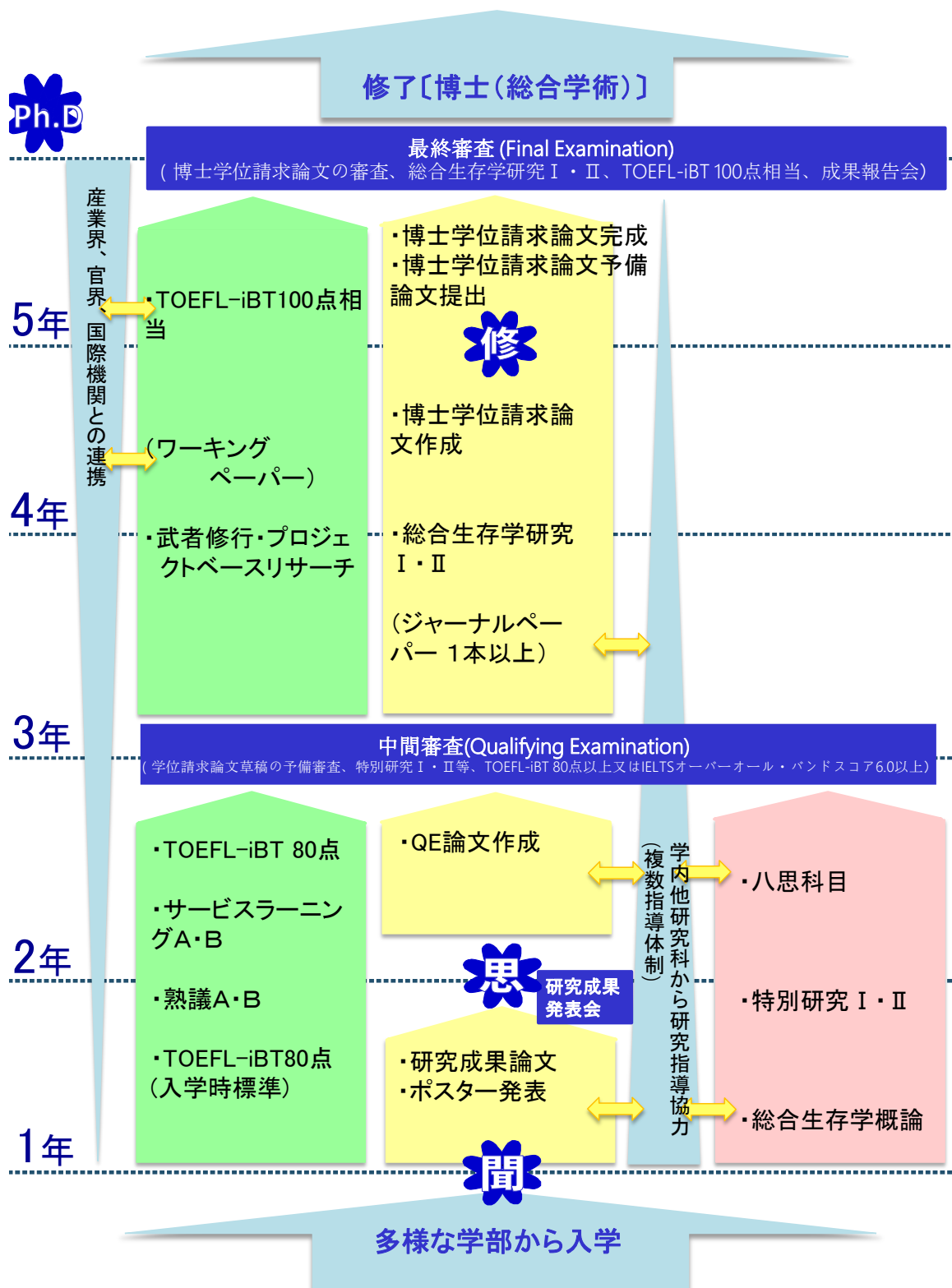
総合生存学館で専門軸形成

総合生存学の修得のための基礎となる専門軸を形成する場を選択

3年次編入生は選択したコースの単位取得に加え、サステナビリティ、ウェルビーイング又はフロンティア開発のいずれかの総合知コース・8単位以上の修得が必要

※社会人編入生に対しては要望によりリカレント教育科目を個別に調整(増加単位)

<平成 30 年度以降入学者>



【ディプロマ・ポリシー(抜粋)】

- ・人類の生存と地球社会の持続に係る複合的な諸課題を解決するため、総合的かつグローバルな視野から先駆的・独創的な学術研究に高い倫理性をもって自律的に取り組むことができ、優れた研究企画推進力によって新規性、独創性、応用的価値を有する学術的成果をあげることができること。
- ・多様な価値基準が交錯する現代社会の地球規模課題を、関連する諸課題を含め、多元的な価値観を持って深く理解し、文理にわたる複数の学問分野の専門的知識を活用して解決に導く実現可能性のある手段や方法を熟考・評価し、国際社会にて提言できること。
- ・社会において多様な価値・システムあるいはイノベーションを創成することを目指し、高度で指導的な役割を担うために必要な理論と実践の双方の能力を発揮して、公共的な使命を果たすに相応しい強い倫理的責任感を持ち、グローバル社会において、幅広い分野で主体的に活動することができること。



Q E 合格後

総合生存学研究Ⅰ、総合生存学研究Ⅱ

総合生存学研究Ⅰでは個々の専門軸に関する知識の社会実装ともいうべき「修」の段階に入ります。すなわち、特別研究Ⅰ・Ⅱで身につけた研究基礎力や学識などをベースに自らが選んだ専攻分野における研究能力を増進させるとともに、博士学位論文作成に要求される知識と多様な専門分野を俯瞰する力を身につけます。

総合生存学研究Ⅱでは、「総合生存学」に関する知見をさらに広め、学生自らが課題設定とその解決の道筋について十分な検討をした上で、課題解決や意思決定に取り組めます。また、博士学位論文の作成に向けて、各自の主体的な研究計画に沿った研究状況の発表や研究成果の定期的な報告に対して複数の教員に多角的な視点から助言を得るとともに、対外発表、論文発表などを経験し、そのフィードバックを経て、洗練された博士学位論文を完成させます。

武者修行・プロジェクトベースリサーチ

海外の機関等における武者修行によって実務面での学修の機会を持ち、グローバルな視野をもって創造的に課題解決にあたるために必要な能力を獲得します。同時に、人類や社会システム、地球社会などにおける今日の課題の所在を理解し、「総合生存学」にかかわる自らの課題を設定し、その解決への実践に取り組むProject Based Research (PBR)を実施します。武者修行・PBRで学んだ成果は、実施報告書およびワーキングペーパーにまとめ、その内容を博士学位論文にもりこむこととします。

Q E 受験前

特別研究Ⅰ、特別研究Ⅱ

大学学部などで身につけた学術に関する知識を「聞」の段階とすれば、特別研究Ⅰでは「思」の段階の初歩として、自ら選んだ専攻分野における研究を実施します。同時にその周辺の学術について、複数教員の指導と助言のもとで、専門書や研究論文の講読などを通じて幅広くかつ深い学識を体系的に獲得します。さらにディスカッションなどによって自ら考え、それを表現する力をつけることで研究基礎力を身につけます。

特別研究Ⅱでは「思」の段階の完成をめざし、多様な研究技法と最新の研究結果を習熟します。同時に、研究課題に関する複数指導教員とのディベートなどを通じて、研究の評価や批評の方法を学び、コミュニケーション力、研究・開発の洞察力、計画力、推進力、さらに、文章力、プレゼンテーション能力、討論力、課題発見能力など博士論文作成のための十分な基礎力を会得します。さらに中間審査(QE)に要求される研究論文を作成します。

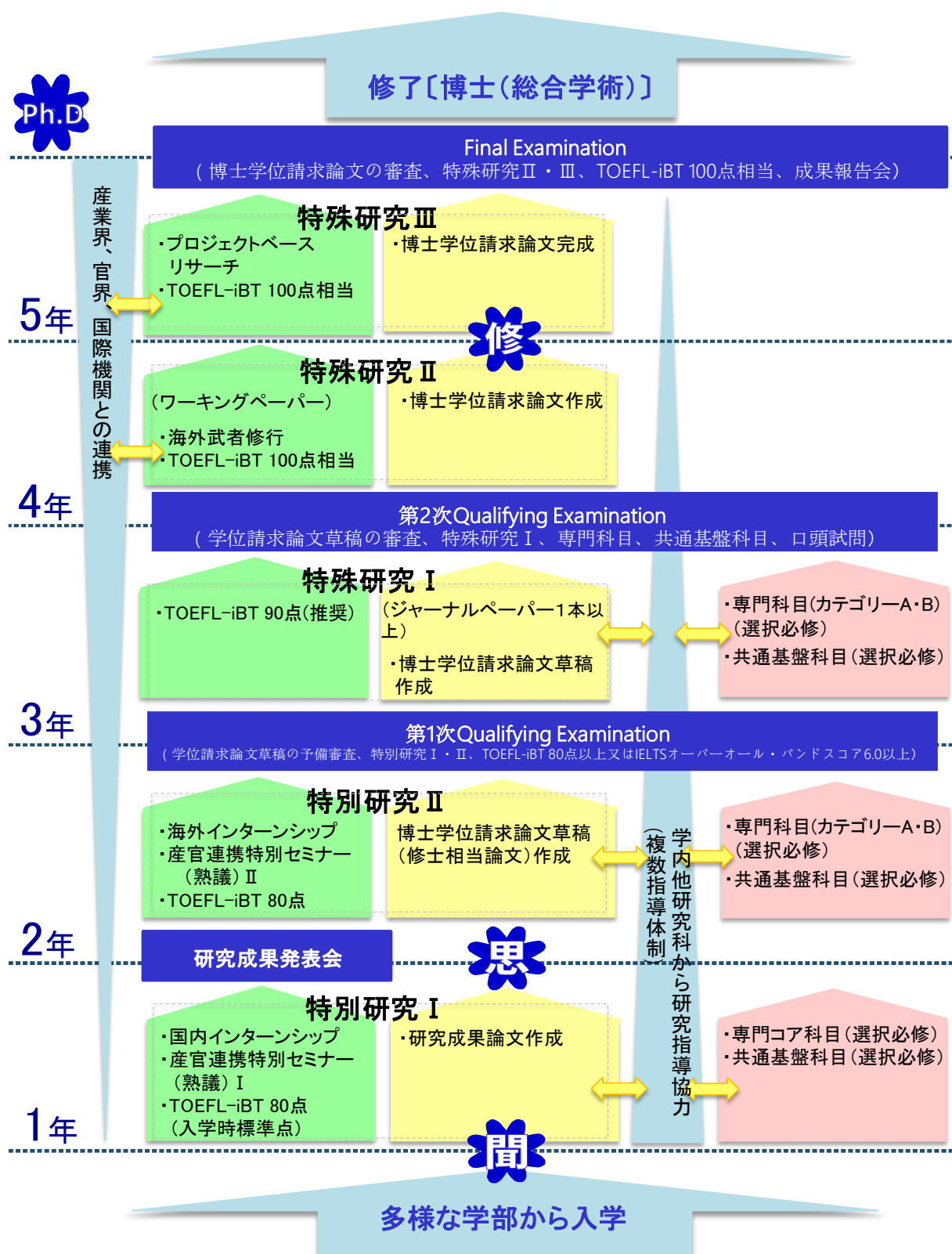
サービ斯拉ーニングA・B、熟議A・B

夏季休業期間中を中心に、サービ斯拉ーニングとして福祉施設等において一定期間の現地実践教育に参加します。また、熟議A・Bを通じて人類や社会システムにおける今日の課題の所在を理解し、「総合生存学」にかかわる自らの課題設定へとつなげ、課題に関する調査をもとにディベート演習を行います。

【アドミッション・ポリシー(抜粋)】

- ・地球規模課題解決のために取り組む研究課題・研究目標を設定できる能力ならびに、研究をやり遂げる意志・能力および研究を実施するに必要な基礎的能力を有していること。
- ・様々な地球規模課題を解決する強い興味と関心を持ち、自らの将来を計画し、決断、実行する力を有しているとともに、社会において多様な価値・システムを創造するようなグローバルリーダーを目指す意欲を有していること。
- ・グローバルに活躍するための基礎となる語学力・コミュニケーション能力を有していること。

<平成 29 年度以前入学者>



【ディプロマ・ポリシー(抜粋)】

- ・人類の生存と地球社会の持続に係る複合的な諸課題を解決するため、総合的かつグローバルな視野から先駆的・独創的な学術研究に高い倫理性をもって自律的に取り組むことができ、優れた研究企画推進力によって新規性、独創性、応用的価値を有する学術的成果をあげることができること。
- ・多様な価値基準が交錯する現代社会の地球規模課題を、関連する諸課題を含め、多元的な価値観を持って深く理解し、文理にわたる複数の学問分野の専門的知識を活用して解決に導く実現可能性のある手段や方法を熟考・評価し、国際社会にて提言できること。
- ・社会において多様な価値・システムあるいはイノベーションを創成することを目指し、高度で指導的な役割を担うために必要な理論と実践の双方の能力を発揮して、公共的な使命を果たすに相応しい強い倫理的責任感を持ち、グローバル社会において、幅広い分野で主体的に活動することができること。



特殊研究Ⅲ

博士学位論文の作成に向けて、各自の主体的な研究計画に沿った研究状況の発表や研究成果の定期的な報告に対して複数の教員が多角的な視点から助言を与えるとともに、発展型のProject Based Learning (PBL)ともいえるProject Based Research (PBR)などの実践的な学修の機会を含む対外発表、論文発表などを経験させ、そのフィードバックを経て、博士学位論文の作成と提出へと導きます。

5年

特殊研究Ⅱ

特殊研究Ⅱでは、「総合生存学」に関する知見をさらに広め、学生自らに課題設定とその解決の道筋について十分な検討をさせた上で、課題解決や意思決定に取り組ませます。さらに、研究状況や研究成果について報告させ、博士学位論文の準備に向けて適切な助言を与えます。また、フィールドワークによる実務面での学修の機会を学生に提供し、グローバルな視野をもって創造的に課題解決にあたるために必要な能力を獲得させます。

4年

特殊研究Ⅰ

特殊研究Ⅰでは個々の専門軸に関する知識の社会実装ともいべき「修」の段階に入ります。すなわち、特別研究Ⅰ、Ⅱで身につけた研究基礎力や学識などをベースに自らが選んだ専攻分野における研究能力を増進させるとともに、第2次博士論文研究基礎力審査QE2において要求されている専門科目群に関する知識と多様な専門分野を俯瞰する力を身につけさせます。

3年

特別研究Ⅱ(含海外インターンシップ)

特別研究Ⅱでは「思」の段階の完成をめざし、多様な研究技法と最新の研究結果に習熟させます。同時に、特別研究課題に関する複数指導教員とのディベートなどを通じて、研究の評価や批評の方法を学ばせ、コミュニケーション力、研究・開発の洞察力、計画力、推進力、さらに、文章力、プレゼンテーション能力、討論力、課題発見能力など博士論文研究を開始するための十分な基礎力を会得させます。さらに特別研究についての学位論文草稿の作成、提出へと指導・助言します。熟議Ⅱでは、講師の指示に従い学生が各自の課題を設定し、課題に関する調査をもとにディベート演習を行います。一方、グローバル人材としての国際性確保のために、夏季休業期間中にインターンシップとして海外機関において一定期間のサービスラーニング型現地実践教育を実施します。

2年

特別研究Ⅰ(含国内インターンシップ)

大学学部などで身につけた学術に関する知識を「聞」の段階とすれば、特別研究Ⅰでは「思」の段階の初歩として、自ら選んだ専攻分野における特別研究を実施します。同時にその周辺の学術について、複数教員の指導と助言のもとで、専門書や研究論文の講読などを通じて幅広くかつ深い学識を体系的に獲得させます。さらにディスカッションなどによって自ら考え、それを表現する力をつけさせることで研究基礎力を授けます。また、国内インターンシップならびに産官連携特別セミナー(熟議Ⅰ)を通じて人類や社会システムにおける今日的な課題の所在を理解させて、「総合生存学」にかかわる自らの課題設定へと導きます。

1年

【アドミッション・ポリシー(抜粋)】

- ・地球規模課題解決のために取り組む研究課題・研究目標を設定できる能力ならびに、研究をやり遂げる意志・能力および研究を実施するに必要な基礎的能力を有していること。
- ・様々な地球規模課題を解決する強い興味と関心を持ち、自らの将来を計画し、決断、実行する力を有しているとともに、社会において多様な価値・システムを創造するようなグローバルリーダーを目指す意欲を有していること。
- ・グローバルに活躍するための基礎となる語学力・コミュニケーション能力を有していること。